



けいせん

2010.11.17



寒さが増すとともに、木の葉が色づき、深まりゆく秋を感じます。冬に向かうこの時、あの暑かった夏はすいぶんと前のことのように感じます。

この夏、私はいくつかの研究会を受けましたが、その中で心に残る、というより、ふと思い出す、考えるものが2つあります。それはどちらもキーワードが「伝える・遺す」というものでした。ひとつは親業訓練パートII講座（自分の親との関わりを見る。そこから子育てや保育のスキルアップを目指すもの）もうひとつは助産師・内田美智子さんの講演（「子どもたちの生きる力になるもの～親が子に遺せるもの」）です。この研究会を今夏に、同時期に受けることができた不思議さと恵みを感じています。

親業の中で「親はわたしに何を伝えてきたか」を自由にかき單元がありました。父も母も、格言のようにこうあるべきだ、と言っておく（ほとんどなかった）ので、はじめはかき出せませんでした。生活の中でママさんの会話が、その中でママさんのことを伝えてくれている。ママさんということに気づくと、自分でも驚くほどいいお父さん、お母さんの声、仕草、表情、行動が浮かんできました。消しゴムで消す時はきれいに消すこと、配りから必ず連絡すること、一度始めたことは続けること、などという日常の言葉。車を送ってくれた時、忘れ物があったりして戻ってきた時のために少し待っていてくれること、好きなことをしなさい、できることはやらせよ、と私を全面的に信頼し、見守り、いざという時はさりげなく援助してくれる大きさ、いつも冷静で、でもあたたかさを感じられる安心感、目標をもって、前向きにあきらめずに頑張ること、などという父、母の姿から与えられたもの。かききれない伝えてもらったこと、その全てに両親の限りない愛情を感じます。私たちが姉弟を大切に右前を呼び、大切に育て、大切に愛してくれた両親が私に伝えてくれているのは一貫して、「あなた（私）は大切」というメッセージでした。

では、私が子どもに伝えること、遺せるものは？ 毎日のあたり前の生活の中ではそのあたり前こそが幸せと気がつく、大切にしたいことや一歩先に感じて笑顔を返されることを忘れていないかと、自分自身をふり返っています。内田さんの講演の「親が子に伝えるものは日々の暮らしの中にこそある。」「今日子どもの成長を見守ることの幸せ」「子どものそばにいられる時間はそう長くはない」という言葉が印象に残っています。私自身が今日一日を大切に生き、大切なものを大切に気づく。そして子どもに（子どもたちに）その思いを伝えていく。声に出して、姿で。そんな一日を子どもと一緒に過ごす喜びを、やっぱり大切にしたい。そう思います。

今日も大切な一日でありますように...

Y.モ

